

平成二十六年年度年史企画展

「Start for Next 関西大学第一高等学校・

関西大学第一中学校創立百周年記念展」の記録

年史編纂室

関西大学第一高等学校・関西大学第一中学校は、その前身である関西甲種商業学校が大正二年（一九一三）に開校してから、平成二十五年（二〇一三）で創立百周年を迎えた。記念式典は十一月二日（土）になみはやドーム（大阪府立門真スポーツセンター）で開催され、在学生、保護者、同窓生、来賓、関係者など四〇〇〇名以上が参集し、百周年を寿ぎ、第二世紀での更なる飛躍を誓う、盛大な祭典となった。

こうしたことを踏まえ、平成二十六年度の年史企画展は、第一高等学校・第一中学校の百年のあゆみに焦点をあつ、「Start for Next 関西大学第一高等学校・関西大学

第一中学校創立百周年記念展」として開催することにした。なお、メインタイトルの「Start for Next」は、在校生が考えた百周年のキャッチコピーを使用した。

一 壁面解説パネル

企画展示室には、現物資料を展示するための大型ケース一基と、写真パネル用の展示台二基が設けられている。さらに、壁面を利用して数点の解説パネルが掲げられるようになっている。

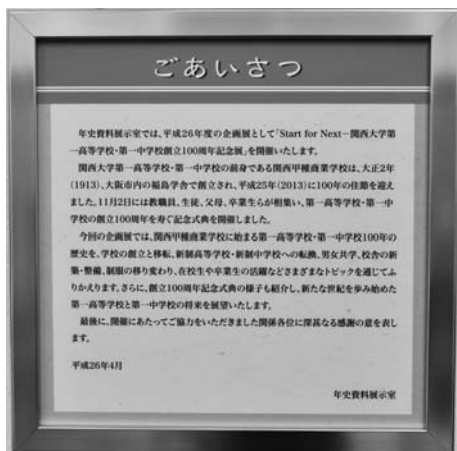
今回の企画展では、順路に従い、最初に「あいさつ」のパネル、その横に大型パネルを掲げ、さらに大型展示

ケースの左右に中型のパネル二枚を設置した。

「じゅあごやひ」

「ごあいさつ」の文面は次のとおりである（パネル本文は横書き）。

年史資料展示室では、平成26年度の企画展として



「ごあいさつ」のパネル

「Start for Next — 関西大学第一高等学校・第一中学校創立100周年記念展」を開催いたします。

関西大学第一高等学校・第一中学校の前身である関西甲種商業学校は、大正2年（1913）、大阪市内の福島学舎で創立され、平成25年（2013）に100年の佳節を迎えました。11月2日には教職員、生徒、父母、卒業生らが相集い、第一高等学校・第一中学校の創立100周年を寿ぐ記念式典を開催しました。

今回の企画展では、関西甲種商業学校に始まる第一高等学校・第一中学校100年の歴史を、学校の創立と移転、新制高等学校・新制中学校への転換、男女共学、校舎の新築・整備、制服の移り変わり、在校生や卒業生の活躍などさまざまなトピックを通じてふりかえります。さらに、創立100周年記念式典の様子も紹介し、新たな世紀を歩み始めた第一高等学校と第一中学校の将来を展望いたします。

最後に、開催にあたってご協力をいただきました関係各位に深甚なる感謝の意を表します。

大型パネル

「関西大学第一高等学校・第一中学校百年のあゆみ」

大型パネルには「関西大学第一高等学校・第一中学校百年のあゆみ」というタイトルを付け、第一高等学校と第一中学校の百年の歴史を年表としてまとめた。この年表は、創立百周年の記念刊行物『100年のあゆみ』に掲載された年表を増補したものである。年表の空いた場所には、各時代の特徴を示す次の写真を掲載した。

- 写真1 関西甲種商業学校があつた福島学舎（大正八年関西甲種商業学校卒業アルバム）
- 写真2 学友会誌に掲載された第二商業学校校章
- 写真3 一高食堂（昭和29年竣工）
- 写真4 講堂兼体育館（昭和30年竣工）と扇形校舎（昭和32年竣工）
- 写真5 登下校の生徒を見守った母子像（昭和33年設置）
- 写真6 関一祭（昭和60年ごろ）
- 写真7 食堂（昭和60年ごろ）
- 写真8 関甲倶楽部が建立した創立75周年記念碑



大型パネル

「関西大学第一高等学校・第一中学校百年のあゆみ」

(昭和62年設置)

写真9 夏の甲子園K.Uの人文字(平成10年)

写真10 新装になった一高・一中の正門(平成25年)

中型パネル「第二商業学校と第一高等学校の夜間課程」
と「千里山花壇・千里山遊園」

大型展示ケースの左右には、「第二商業学校と第一高等学校の夜間課程」と「千里山花壇・千里山遊園」の計二枚の中型パネルを設置した。

「第二商業学校と第一高等学校の夜間課程」の解説文は次の通りである。

第二商業学校と第一高等学校の夜間課程

現在の第一高等学校と第一中学校が伝統を受け継いでいる学校には、関西甲種商業学校のほかに、夜間に授業が行われていた第二商業学校がある。

第二商業学校は大正13年(1924)、大阪市内の福島学舎で開校した修業年限3年の学校である。高等小



中型パネル
「第二商業学校と第一高等学校の夜間課程」

学校または中等学校2学年修了者(14歳以上)を入学対象として、午後4時半から9時まで授業が行われ、夜間に勉強をして、大学に進学できる中学校卒業資格を望む生徒が通学した。

大正15年(1926)に第1期卒業生102名が卒業、その後は毎年100名を超える生徒が巣立っていった。昭和4年(1929)には新たに竣工した天六学舎に校舎を移すが、戦争末期の昭和20年(1945)3月、

理科系を重視した学制改革により、第二商業学校は2772人の卒業生を送り出して廃止となった。

終戦後の昭和23年（1948）、天六学舎で新制高校として関西大学第一高等学校が誕生したときに、第二商業学校関係者の尽力により、普通科と商業科からなる夜間課程が設けられた。夜間課程の生徒は、昼間働きながら学ぶ人がほとんどで、また戦争で断念した勉学を再開した人も多く、10代の生徒だけでなく、さまざまな年齢層の人々が集まっていた。昼間課程と同じく夜間課程も男女共学で、一学年の定員は200名であったが女子生徒の入学は少なく、多い年で12名が卒業しただけであった。

その後、公立高校に定時制（夜間課程）が設置されたため志願者が減少したことや、大学第二部（夜間）の天六学舎移転が決まったことから、昭和30年（1955）3月に最後の卒業式を挙行し、夜間課程はその役割を終えた。

写真1 第二商業学校 東京への修学旅行（皇居二

重橋前、昭和4年）

写真2 第二商業学校学友会誌

写真3 天六学舎に残る第二商業学校第5回卒業植

樹記念碑（昭和5年）

写真4 夜間課程第4期生の集まり（昭和28年ころ）

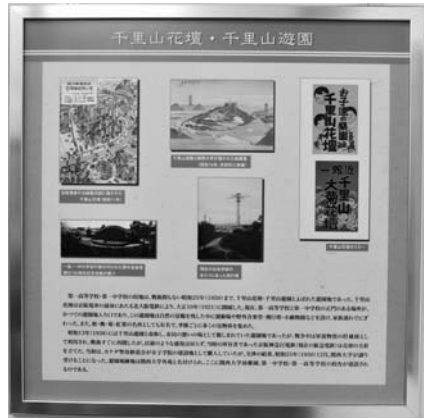
写真5 関大二商再建に関する建議書（昭和22年）

写真6 夜間課程有終記念式（昭和30年4月）

「千里山花壇・千里山遊園」の解説文は次の通りである。

千里山花壇・千里山遊園

第一高等学校・第一中学校の校地は、戦後間もない昭和25年（1950）まで、千里山花壇・千里山遊園とよばれた遊園地であった。千里山花壇は京阪電車の前身にあたる北大阪電鉄により、大正10年（1921）に開園した。現在、第一高等学校と第一中学校の正門のある場所が、かつての遊園地入り口であり、この遊園地は自然の景観を残した中に運動場や野外音楽堂・飛行塔・小動物園などを設け、家族連れでにぎわった。



中型パネル「千里山花壇・千里山遊園」

また、桜・桃・菊・紅葉の名所としても有名で、季節ごとに多くの見物客を集めた。

昭和13年（1938）には千里山遊園と改称し、市民の憩いの場として親しまれていた遊園地であったが、戦争中は軍需物資の貯蔵庫として利用され、戦後すぐに再開したが、以前のような盛況は戻らず、当時の所有者であった京阪神急行電鉄（現在の阪急電鉄）は売却の方針を立てた。当初は、カナダ聖母修道会が女子

学院の建設地として購入していたが、交渉の結果、昭和25年（1950）12月、関西大学が譲り受けることになった。遊園地跡地は関西大学外苑と名付けられ、ここに関西大学幼稚園、第一高等学校、第一中学校の校舎が建設されるのである。

写真1 京阪電車の沿線案内図に描かれた千里山花壇（昭和11年）

写真2 千里山遊園と関西大学が描かれた絵葉書（昭和16年、吉田初三郎筆）

写真3 千里山花壇ポスター

写真4 一高・一中の学校行事が行われた野外音楽堂、現在100周年記念会館が建つ

写真5 現在の社会学部のあたりにあった飛行塔

二 写真展示台のパネル

二基の写真展示台には、それぞれ四面ずつ、あわせて八面の写真パネルを掲出した（写真解説は横書き）。



写真パネル1 開西甲種商業学校の誕生

《写真パネル1 開西甲種商業学校の誕生》

開西大学第一高等学校・第一中学校の前身である開西甲種商業学校は、大正2年（1913）4月、大阪市北区上福島（現在の大阪市福島区福島7丁目、JR大阪環状線福島駅北側）の開西大学福島学舎で創立された。その目的とするところは、商業と工業で栄えていた大阪を支える商業人を育てることにあり、創立当初の修業年限は14歳以上の男子に対して3年間、大正10年（1921）の法改正以降は12歳以上の男子が5年間学ぶ学校となった。

開西甲種商業学校では、国語・数学・理科・地理・

歴史・英語・体操などの科目があり、外国人教師による授業も行われていた。このほか簿記・商業通論・商業法規・商業英語・会計学など、商業学校らしい専門的な科目もあった。課外授業としては、堺大浜（大阪府堺市）や香櫨園（兵庫県西宮市）での水泳教練、伊勢・和歌山・東京方面への修学旅行が行われていた。柔道、剣道、相撲、陸上、野球、卓球、テニスなどのスポーツや、弁論部、音楽部などの活動も盛んであった。

- 写真1 開西甲種商業学校の門標を掲げる福島学舎（大正2年ごろ）
- 写真2 第1期生募集の新聞広告（「大阪朝日新聞」大正2年2月25日）
- 写真3 外国人教諭による授業（大正8年卒業アルバム）
- 写真4 水泳教練での集合写真
- 写真5 福島の校庭でテニスをする開甲生（大正8年卒業アルバム）

《写真パネル2 天六学舎への移転》

関西大学福島学舎で開校した関西甲種商業学校は、大正5年（1916）に第一期生73名が卒業した。大正10年（1921）以降は、毎年100名を超える卒業生を送り出し、順調に発展していった。ところが、東海道本線の拡張工事に伴い、大正14年（1925）に国から福島学舎の敷地を買い上げる申し入れがあった。これによって校地が縮小されるため、新たな場所への移転が検討された。

その結果、千里山学舎への交通の便や、夜間に大阪市内から通学する勤労学生の利便性を考えて、昭和2年（1927）、大淀区長柄中通2丁目にある市有地の払い下げを受け、新たな校舎の建設を始めた。天六学舎の誕生である。

天六学舎は昭和4年（1929）9月15日に竣工し、福島学舎から関西大学専門部、関西甲種商業学校、第二商業学校が移転した。天六学舎は福島学舎のほぼ2倍の敷地面積があり、大人数が収容できる大講堂や大小40の教室を備えていた。生徒たちは、当時としては



写真パネル2 天六学舎への移転

最新の設備で学ぶことができた。

写真1 竣工当時の天六学舎（昭和4年）

写真2 教室内の風景（昭和18年）

写真3 大講堂での卒業式（昭和7年）

《写真パネル3 新制中学校・高等学校への転換》

昭和16年（1941）に始まる太平洋戦争は、関西甲種商業学校にとっても、生徒の繰り上げ卒業や勤労動員などが行われた厳しく困難な時代であった。この時代を乗り越えた関西甲種商業学校は、終戦後の学校



写真パネル3 新制中学校・高等学校への転換

制度改革のもと、新制の学校として生まれ変わった。

昭和22年（1947）4月、関西甲種商業学校を母体として関西大学第一中学校が開校し、甲種商業学校在学の1年・2年・3年生が新制第一中学校の生徒となった。

昭和23年（1948）4月には、関西甲種商業学校からの編入生と、新たに全学年で募集した生徒を合わせ、第一高等学校（昼間課程3年・夜間課程4年）が開校した。第1回入学式が行われた4月20日は、第一高等学校の創立記念日となった。

昭和24年（1949）3月には、関西甲種商業学校

最後の卒業式が行われ、34名が卒業。関西甲種商業学校は大正2年（1913）の創立以来、5049名の卒業生を世に送り出し有終を迎えた。

写真1 天六学舎の前で談笑する一高生たち

写真2 関西大学外苑と一高・一中の正門

写真3 関西大学外苑に竣工した一高・一中校舎（昭和28年）

写真4 一高の授業風景（昭和30年ごろ）

写真5 一中の日光修学旅行（昭和25年）

写真6 図書室（昭和30年ごろ）

《写真パネル4 男女共学の時代》

昭和23年（1948）4月、新制の高等学校として開校した第一高等学校は、男子だけであった関西甲種商業学校の時とは違い、男女共学の学校として出発した。これは、昭和22年（1947）に制定された教育基本法が男女共学を推奨していたので、その精神を受けたものであった。



写真パネル4 男女共学の時代

第一高等学校での女子生徒の推移を卒業者数で見ると、下の表のようになるが、女子の進学は少なかった。そのため、昭和28年（1953）に女子の募集を止め、昭和30年（1955）に最後の女子生徒が卒業した。こうして男女共学の時代は終わり、以後、40年以上に及ぶ長い男子校の時代が続く。

第一高等学校・第一中学校が再び女子生徒を迎えるのは平成7年（1995）4月のことで、この年、第一中学校に48人の女子生徒が入学した。この女子生徒が第一高等学校へ進学した平成10年（1998）、第一

高等学校も再び男女共学校となった。

- 写真1 男女共学時代の生徒募集広告（『関西大学学報』246号、昭和27年2月）
- 写真2 男女共学時代のクラス写真（昭和27年）
- 写真3 華道の授業（昭和28年）
- 写真4 最後の女子生徒卒業式（昭和30年）
- 写真5 男子校時代の授業風景（昭和63年）
- 写真6 現在の学内風景

《写真パネル5 校舎の移転・新築・整備》

昭和25年（1950）3月、関西大学は千里山学舎の南側に隣接する千里山遊園の跡地を購入した。第一高等学校・第一中学校の関係者は、大阪市内の天六学舎と比べて環境の良い、大学外苑と名付けられたこの場所への移転を要望したが、なかなか実現しなかった。

その後、昭和27年（1952）4月から関西大学第二部の講義が天六学舎で行われることになり、第一高等学校・第一中学校の千里山移転が本格的に検討された。そして、昭和28年（1953）11月に第一高等学



写真パネル5 校舎の移転・新築・整備

校が、昭和32年（1957）11月には第一中学校が天六学舎から千里山へ移転した。

第一高等学校の移転に先立つ昭和28年（1953）

5月以降、大学外苑での校舎整備が始まり、現在に至るまで数多くの建物が建設されてきた。このうち、第一高等学校1号館・2号館・3号館と第一中学校1号館（扇形校舎）は文化勲章を受章した建築家村野藤吾による設計である。

写真1 昭和37年 一高・一中航空写真

① 昭和28年10月竣工 第一高等学校2号館

② 昭和30年3月竣工 第一高等学校講堂兼体育館（現在の景風館）

③ 昭和32年11月竣工 第一中学校1号館（扇形校舎）

④ 昭和36年10月竣工 体育館兼講堂

写真2 平成21年 一高・一中航空写真

⑤ 昭和41年1月竣工 第一高等学校3号館（高中理科特別教室）

⑥ 昭和48年4月竣工 第一中学校2号館（一中特別教室）

⑦ 昭和55年12月竣工 第一高等学校1号館

⑧ 平成10年3月竣工 第一中学校3号館

⑨ 平成11年2月竣工 第一高等学校・第一中学校体育館 秀麗館

⑩ 平成16年1月竣工 親和館（多目的教室・食堂）

《写真パネル6 制服の変遷》

戦後、新制の第一高等学校・第一中学校として開校



写真パネル6 制服の変遷

した当初、男子生徒は黒の詰襟学生服を着用していた。

その後、昭和28年（1953）、第一中学校では黒の詰襟を止め、紺色・ホック留め・蛇腹縁取りの制服が制定された。第一高等学校に昭和30年（1955）まで在籍していた女子生徒には、決まった制服は無かったが、卒業アルバムで確認すると、女子生徒はセーラー服やブレザーを着用している。

昭和34年（1959）、第一高等学校・第一中学校共通のグレー・折襟の制服が制定された。学生帽も制服と同じグレーで、第一高等学校の帽子には白の二本線

が入っていた。

平成2年（1990）、制服が大幅に改められ、30余年の伝統があったグレー・折襟の制服は廃止され、新たにブレザーが採用された。

写真1 男女共学時代の制服（昭和26年卒業アルバムから）

写真2 男子校時代の制服（昭和60年ごろの登校風景）

写真3 現在の制服

写真4 男子校時代の一高学生帽

《写真パネル7 活躍する在校生・卒業生》

文武両道を実践する校風を受け継ぐ第一高等学校・第一中学校では、授業や課外活動を通じて多くの人材が育ち、彼らは卒業後も各界で活躍している。

佐藤信夫（昭和35年卒業）は、一高在学中の昭和35年（1960）年2月、第8回冬季オリンピック（米国・スコバレー）にフィギュアスケート男子の日本代表として出場。現在は浅田真央選手をはじめとする

世界トップスケーターのコーチとして後進の指導にあ
たっている。平成12年（2010）には、世界フィギ
ユアスケート殿堂入りを果たした。

堀江謙一（昭和32年卒業）は、一高ではヨット部に
所属して操舵の技術を磨き、卒業後の昭和37年（19
62）、単独での太平洋横断航海を成功させた。

また、現在プロ棋士として活躍する豊島将之も一高
の卒業生（平成21年卒業）である。

平成7年（1995）の男女共学化以降は、全国レ
ベルでの運動部の活躍が続いている。

アメリカンフットボール部は、平成9年（1997）
と平成10年（1998）に、史上3チーム目となる全
国大会連続優勝を果たした。

サッカー部は、平成9年（1997）、全国大会に初
出場、平成22年（2010）の全国大会ではベスト4、
翌平成23年（2011）はベスト8に進出している。

硬式野球部は、平成10年（1998）春の選抜高校
野球で準優勝、同年夏の高校野球ではベスト8となっ
た。高校野球は全国的な注目度も高く、応援団の編成

や募金活動など、全校あげて様々な取り組みが行われ、
アルプススタンドには巨大なKUの人文字が描かれた。

日本拳法は関西大学で生まれた武道で、その伝統を
受け継ぐ日本拳法部は、平成25年（2013）、全国大
会で男女団体の同時優勝を果たしている。

このような全国レベルでの活躍を通じて、梅鉢貴秀
（鹿島アントラーズ）、西田哲郎（楽天イーグルス）、久
保康友（横浜DeNAベイスターズ）らプロで活躍する
選手も誕生している。

写真1 スコーバレー五輪での佐藤信夫選手（昭和



写真パネル7 活躍する在校生・卒業生

35年)

写真2 世界一周航海から帰港した堀江謙一（昭和

49年、毎日新聞社提供）

写真3 センバツ準優勝旗を掲げて行進する一高ナ

イン

写真4 クリスマスボウル連覇のアメリカンフット

ボール部（平成10年）

写真5 全国大会ベスト4となったサッカー部（平

成22年）

《写真パネル8 創立100周年記念式典》

平成25年（2013）11月2日、関西甲種商業学校

の創立から数えて100周年を迎えた関西大学第一高等学

校・第一中学校は、大阪府門真市のなみはやドームで

祝賀の記念式典を開催した。在校生、保護者、同窓生、

来賓や関係者など、4000人を超える人々が集う盛

大な式典となった。

記念式典は、出席者全員による校歌斉唱に始まり、

橋本定樹校長の式辞、池内啓三理事長の挨拶、来賓の



写真パネル8 創立100周年記念式典

小西禎一大阪府副知事、小坂圭一一高同窓会長の祝辞と続いた。さらに、生徒代表水野真君の挨拶の後には、

100周年を盛り上げたマスケットキャラクターとシンボルマークをデザインした吉武茉莉さん、中田早紀さんの表彰式が行われた。

式典後半は、ブラスバンドとカイザー部チアリーディングが、力強い演奏と演舞を披露した。式典終了直前には、第一高等学校の卒業生でお笑いコンビのジャ

ルジャル（平成14年卒業）が登場し、会場をわかせた。参加者のだれもが第一高等学校・第一中学校のさらな

る飛躍を確信した印象深い式典となった。

写真1 なみはやドームに参集した一高生・一中生

写真2 記念式典会場の舞台

写真3 カイザー部チアリーディングの演舞

写真4 サブライズゲスト ジャルジャル（一高卒

業生）

写真5 100周年のシンボルマークとマスコット

三 現物展示

大型展示ケースには、①関西甲種商業学校の入学、卒業、課外活動に関する資料、②第一高等学校の学用品、③硬式野球部の春・夏連続甲子園出場に関する資料、④100周年記念グッズを展示した。それぞれの展示品に対する解説文は次の通りである。

「本校備忘録」

関西甲種商業学校の主事や校長を務めた垂水善太郎の備忘録。学校創立直前の大正2年（1913）1月に始まり、断続的に大正6年（1917）11月までの

関西甲種商業学校に関する様々な内容が記されている。

垂水善太郎 元治2年（1865）京都府に生ま

れる。明治21年（1888）、関西法律学校に入学。明

治24年（1891）の卒業後は、幹事として本学の教

務を担った。江戸堀学舎と福島学舎の建設に奔走し、

大正2年（1913）、関西甲種商業学校設立後は、そ

の経営に専念した。昭和8年（1933）、関西甲種商

業学校長となる。関西大学の創立期から発展期にかけ

て、実務の一切を処理し、本学の基礎を築いた。昭和

13年（1938）2月、73歳で永眠。

「本校備忘録」展示部分（関西甲種商業学校第一期生

入学の記事）読み本

（大正2年）四月七日

一 入学志願者中百式拾名ヲ採用シ本日生徒ヲ召集シ

其旨申渡、更ニ来ル十一日午前九時保護者ト共ニ

出校、入学式ヲ挙行スル旨注意セリ

本日前十時生徒ニ対シ体格検査ヲ行ヒ医師岩田

義玄氏ニ嘱託セリ

四月十一日



現物展示の様子

一本日生徒及保護者一同ヲ召集シ誓約書外ニ入学金ヲ徴収シタリ

午前九時半ヨリ入学式ヲ行ヒ勅語奉読、本校教授方針生徒心得ヲ訓辞ス、各教師一同列席ス

「第二商業学校卒業証書」

大正13年（1924）に開校した第二商業学校の卒業証書。二商では午後4時半から9時まで授業が行われ、卒業すると中学校卒業と同等であると見なされた。中学校卒業資格は、高等学校や大学予科を経て大学学部へ進学するために必要であり、その資格を夜間に学びながら取得することのできる学校が二商であった。

「卒業式式辞」

昭和7年（1932）、天六学舎で举行された関西大学専門部・甲種商業学校・第二商業学校の卒業式において、大阪市長関一（せきはじめ）が述べた祝辞。関は大正12年（1923）、第7代大阪市長に就任、助役時代を含め20年以上大阪市政に携わった。御堂筋の拡

張や地下鉄御堂筋線の敷設、大阪城天守閣の再建など、数多くの事業を行い、今日につながる大阪の基礎を築いた。

「相撲部優勝メダル」

関西甲種商業学校相撲部の優勝メダル。横綱と軍配をデザインし、横綱には「関西甲種商業学校」、軍配の表には「皇紀二五九五」（西暦1935年）、裏には「優勝」の文字が刻まれている。堺の浜寺（大阪府堺市）で開催された相撲大会のメダルと伝わっている。

「陸上天運動会パンフレット」

昭和8年（1933）10月8日、千里山学舎で行われた陸上天運動会のパンフレット。千里山学舎の運動場は、現在の総合図書館・尚文館の建つ場所にあった。100メートル走・リレー競争・走り高跳びなどのほか、決算報告競争・生活難競争など商業学校を想起させる種目もある。

「雄弁大会パンフレット」

近畿二府六県に愛知県・岐阜県から参加があった、第18回全関西中等学校優勝雄弁大会のパンフレット。関甲が主催し、昭和15年（1940）10月12日に開催された。関大二商から2名が出場している。

「一高学生帽」

昭和50年（1975）ごろの学生帽。制服と同じグレー生地で、丸帽に2本の白線がはいる。これは、昭和24年（1949）に廃止となった関西大学予科の学生が着用した学生帽とデザインが似ており、その伝統を受け継いだのかもしれない。

「生徒手帳」

昭和26年度（1951）の第一高等学校生徒手帳。生徒心得・試験施行に関する規定・諸願届書式が掲載され、年間の行事予定・生徒会役員・時間割・家庭との連絡事項などが記入できるようになっている。

「二高硬式野球部の甲子園春・夏連続出場」

平成10年（1998）、第一高等学校硬式野球部は、甲子園春夏連続出場を果たした。春は準優勝、夏はベスト8入りの快挙をとげた。

春の決勝戦では、一高の久保康友（現横浜DYNAMISスタース）と横浜高校の松坂大輔（現ニューヨーク・メッツ）が投げ合った。試合は3-0で惜しくも一高は敗れたが、力強い戦いぶりを全国の高校野球ファンに披露した。また、球場には一高生徒をはじめ、父母や多くの校友が応援に駆け付け、熱気につつまれた。

写真1 準優勝旗を掲げ行進（春の甲子園）

写真2 試合後の校歌斉唱（夏の甲子園）

「100周年記念グッズ」

平成25年（2013）11月2日、一高・一中創立100周年を祝う記念式典がなみはやドーム（大阪府門真市）で挙行された。生徒たちやそのご父母、同窓生、関係者など4000人以上が参集する、盛大で厳粛な式典となった。

100周年を迎えるにあたっては、一高・一中正門の整備工事をはじめ数多くの事業が実施された。その一つとして、男子校時代と現在の制服をデザインしたキーホルダーや、創立100周年記念マスコットである皇帝ペンギンのぬいぐるみなど、11種類もの記念グッズが作成された。中でも男子校時代の制服キーホルダーは、懐かしさもあつて人気が高かった。

四 自校教育での見学

年史資料展示室では、新入生への自校教育の一環として、各学部のゼミやクラス単位での見学を受け入れ、展示解説を行っている。今年度の企画展では、第一高等学校・第一中学校を取り上げたこともあつて、四月には一中三年生、五月には一中二年生の見学が続いた。また、一中一年生は「総合的な学習の時間 探求入門」の授業の一コマとして見学が組み入れられていた。

五月十八日の校友会総会では、第一高等学校・第一中学校のブースに企画展を紹介するチラシを置いてもらったところ、多くの一高・一中のご父母や卒業生の見学も

あった。

これまで年史編纂室で開催した企画展は、主に大学の歩みを主題としてきたが、今年度は初めて併設校に絞った内容での開催となった。見学に訪れる大半の関大生にとっては、一高・一中は学校の名前を知っているぐらいであると思われた。そこで展示解説にあたっては、関西大学福島学舎や天六学舎の竣工について説明する中で、一高・一中の前身である関西甲種商業学校の開設や移転にふれるように心がけた。第一高等学校と第一中学校を、関西大学の大きな歴史の流れのなかに位置づけて取り上げることで、少しでも身近なものとして感じてもらえたのではないかと思う。

(年史編纂室)